



JA共済連と早稲田大学が共同で開講している寄附講座が 2年目を迎えました

～ 東北の震災復興へ向け、新たな食の流通文化創造をめざして ～

2013年3月18日

2012年度に開設した、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(以下 WAVOC)と、JA共済連(全国共済農業協同組合連合会)による三陸沿岸地域の震災復興・農村経済へのアプローチをテーマとする寄附講座の成果を踏まえ、新たに岩手県における授業を加えて、東北の新たな食の流通文化の創造を目的とし、継続して2013年度4月より開講します。

1 本講座開講の意義(早稲田大学)

農山漁村に興味を持つ早稲田大学の学生は少なくありませんが、農村地域について体系的・実践的に学ぶ機会は限られています。本講座は学生の知識欲求に応え、震災の影響を受けた農村地域の諸問題について考える機会を提供します。また、学生は被災地へ赴き、震災復興に向けた活動を行います。机上の学習だけではなく実際に現地で地元の方々と共に活動することは学生にとって大きな糧になると言えます。

2 本講座開講の意義(JA共済連)

2012年4月に、早稲田大学の学生が、「震災復興」や「農村社会」を通じて、「絆」や「助け合い」の重要性を学べるよう、本寄附講座を開講いたしました。昨年度の講座は、多くの学生に受講いただき、また学生が赴いた被災地の方々から高い評価をいただきました。そこで、2年目を迎えた本年度は、TPPについてより深く学ぶ機会の提供や、新たな現地研修の舞台として、岩手県^{たのはた}田野畑村を加えるなど、より一層学生の知識欲求に応えうる内容といたしました。本講座を通じて、農業・農村が抱える諸課題や被災地の現状について、学生の理解がすすむことを期待しております。

3 講義概要

(1) 講座名:震災復興のまちづくり(JA共済寄附講座) 01

期 間: 2013年4月～9月

講座内容:震災後3年目の本年 2013年は、地域産業、社会システムの復興が課題です。

岩手県田野畑村で通称「田野畑復興塾」を開講します。受講生と田野畑関係者の共同で実行委員会を組織し、学習会を経て復興の課題を明らかにし、魅力づくり、まちづくりへつながる政策を学生が提案します。各界の専門家に協力をお願いし、消費地東京の生活者や若者の声を反映させながら、次世代の食文化の可能性を拓く講座とします。また、講義の一環で現地イベント「たのはた牛乳まつり」に参加し、東京でもイベント「田野畑カフェ」を開催予定です。

講座名:震災復興のまちづくり(JA共済寄附講座) 02

期 間: 2013年7月～2014年3月

講義内容:昨年に引き続き、宮城県気仙沼市において通称「気仙沼復興塾」を開講します。同市は2011年に日本で最初の「スローシティ(持続可能な地域社会システム)」に認証されました。復興の課題「スローシティのデザイン」「地域イメージの再構築」「交流圏の形成」「協働のまちづくり推進のしくみ」「担い手育成・思考習慣の革新」を深めるために、現地実習(2回を予定)を行います。グループディスカッションを踏まえ、後半は提案コンペを行います。優秀作品および全作品をまとめた提案集をまとめて、2月に気仙沼市に届けます。また、講義の一環で、早稲田大学周辺の商店街主催の秋のイベント「早稲田かつお祭り」に参加する予定です。

(2) 講座名:農村地域の経済と社会を見る目(JA共済寄附講座)

期 間: 2013年4月～2013年9月

講座内容:農山村社会の成り立ち、農業政策の展開と現状、JA等協同組合の役割、共済・保険の仕組みと役割、地方分権、地方財政問題、地域振興(6次産業化)、TPP問題を学びます。